令和６年度　専門職大学院法務研究科（法科大学院）（A 日程）

小論文（未修者）

注 意 事 項

以下をよく読んで、間違いのないように受験してください。

１．試験開始の合図があるまで、問題を開かないでください。

２．この問題冊子の 3～6 ページに問題が掲載されています。落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。

３．解答用紙は（そのⅠ）・（そのⅡ）の合計 2 枚です。解答用紙の追加は認めません。

４．試験開始の合図があったら、すべての解答用紙に受験番号を記入してください。

５．解答は必ず解答用紙の所定の場所に記入してください。

６．解答用紙には、黒鉛筆（シャープペンシル可）の他、黒または青の万年筆・ボールペンを使用してもかまいません。

７．文字ははっきり、ていねいに書いてください。解答の文字が読みにくい場合、点を与えないことがあります。

８．試験中、使用していない解答用紙は机の上に裏返しにしてください。

［このページは空白です。］

小論文（配点 100 点）

枝廣淳子『好循環のまちづくり！』（岩波書店・2021 年）に掲載された以下の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。

「グローバル化した世界では、どんな地域も相互依存の網の目の中にありますから、地球の反対側であっても、どこかで何かが起こったら、その影響は相互依存のつながりをたどって伝播し、備えをしていない地域に大きな打撃を与えることも考えられます。そういった事態を回避することができないとしたら、地域はどのような「備え」をしておくべきなのでしょうか」。これは、数年前に出版した『レジリエンスとは何か―何があっても折れないこころ、暮らし、地域、社会をつくる』（東洋経済新報社）に書いた文章です。

レジリエンスとは、「外的な衝撃にも、ぽきっと折れてしまわず、しなやかに立ち直る強さ」のことです。いつ何が起こるかわからないという、不確実で不安定な時代を生きていくためには、個人にとっても組織や地域、社会にとっても、レジリエンスが大事です。

しばらく前から、世界では生態系や心理学の分野をはじめ、教育、子育て、防災、地域づくり、温暖化対策など、様々な分野で「レジリエンス」の重要性が注目され、「レジリエンス向上」のための取り組みが展開されるようになってきました。しかし、私たちの暮らしや地域、社会のレジリエンスは強まるどころか、弱まってきているように思えます。

レジリエンスの観点で最も恐ろしいのが「衰退ループ」です。これは、何らかの理由で潜在的な回復力そのものが弱まっているところに、外部からの衝撃がやってくると、衝撃に耐えることができず、ますます回復力（レジリエンス）を失っていくという悪循環のこと。この衰退のループにスイッチが入ってしまうと、加速度的に弱化し、最終的には立ち直れずに衰退してしまうという恐ろしい状況を生み出します。今回のコロナ危機は、私たちが気付かないうちに様々な「衰退ループ」に入っていたことをあぶり出したと言えるでしょう。

コロナ危機で明らかになった衰退ループの１つは、「多様性の低下」だと思っています。これまで、目先の効率を優先するあまり、多様性をどんどんそぎ落としてきました。効率を上げるためには、「多様性は減らしたほうがよい」からです。例えば、ホテルも様々なお客さんに対応するよりも、インバウンドだったら

インバウンドに特化した方が効率的です。農家も 1 種類の換金作物に特化したほうが、効率的に利益が得られます。こうして、平時には効率的で利潤の大きなやり方が定着します。

しかし、こういった「短期的には効率的であっても多様性を失ったやり方」は、今回のように「何かが起こった」ときには脆弱です。椅子にたとえるとわかりやすいでしょう。椅子は 3 本の脚があれば成り立ちますが、3 本脚の椅子は脚が 1 本折れると倒れてしまいます。でも、椅子の脚が 4 本、5 本、6 本とたくさんあれば、1 本か 2 本グラグラしても倒れることはありません。他方、椅子の脚が多ければ多いほど、平時には、むだが多く非効率的だと見られます。そうして、平時には、椅子の脚をどんどん減らしてしまうのです。

これからのまちづくりを考える上で、「短期的な効率」だけでなく、「中長期的なレジリエンス」もしっかり考え、両者のバランスのとれたまちにしていく必要があります。なぜなら、地域に対する衝撃は、今回のコロナ危機で最後ではないからです。今回明らかとなった衰退ループに「喉元を過ぎたから」と目をつぶってしまうと、ますます衰退していき、次の衝撃はもっと厳しいものになってしまうでしょう。

今回のコロナ危機は新たな難題を地域や社会に突きつけています。リーマンショックや東日本大震災も、日本社会や地域をゆるがす大きな衝撃でした。しかしそれらは、ある一瞬の衝撃が加えられ、そこから復興・回復期が数年かそれ以上にわたって続くという性質のものでした。

それに対して、今回のコロナ危機は、危機自体が一瞬で終わるものではなく、数カ月も、場合によっては数年も続きます。その間に、短期的な危機だったら持ちこたえられた組織や地域、社会も回復力を損なわれ、衰退ループが回り始め、その後の復興や回復をより困難なものにしてしまいます。しかも、このような感染症の世界的な蔓延（パンデミック）は今後も繰り返し生じると考えられています。私たちはどのように備えれば良いのでしょうか？

『レジリエンスとは何か』でも紹介した、キューバのハリケーン災害へのレジリエンス強化の取り組みが 1 つの参考になりそうです。キューバはハリケーンに頻繁に襲われる国ですが、「2002 年 9 月に襲来したイシドレとリリは、1 万 8000 戸の家屋を破壊。沿岸の漁村は高波に呑まれ、内陸の村々も洪水で孤立し、学校や病院、水道や電気等のインフラも破壊され、農畜産物でも甚大な被害が出たにもかかわらず、両ハリケーンによる死者は 1 人、負傷者は皆無でした。そ

して、1カ月もかからずに、水道や電気、電話は完全復旧しています。2004年に襲来したイワンは、最大級のカテゴリー5の大型ハリケーンで、米国では52人、カリブ海では70人以上が命を落としましたが、キューバでの死傷者はゼロでした」。

以前より威力も頻度も増しているハリケーンにも、ほとんど死傷者を出さず、信じられないほどのスピードで復旧するキューバには、私たちが学ぶべきことがたくさんあります。

キューバでは、非常時計画がいきわたっており、高度な予測と情報伝達のしくみがあり、いつでも一人残らず非難できる態勢ができています。安心して避難できるための支援と細やかな配慮がなされており、避難所でも手厚い対応が行われるようになっています。

また、毎年ハリケーン・シーズンがやってくるまえに、各地域で2日間の防災訓練が行われます。小学校から防災の授業があり、子どもたちは幼いうちから、災害時の対応方法について学んでいます。日常的に防災教育を行っているため、「何を準備し、何をやるのかをどの子どもも説明できます」。ハリケーン・シーズンが終わると、その1年を振り返り、何が機能し、何が機能しなかったのかをチェックし、改善をはかります。そして、いったん被災したら、迅速に、また二度と被災しないように復旧がなされるのです。

今回のような感染症の危機がハリケーンのように頻繁に来てもらっては困りますが、万一の場合には、どうやってソーシャル・ディスタンシングを行えばよいか、何に気をつけるべきなのか、どういう行動は良くて、何はいけないのか、学校に登校できない間はどうやって学習を続ければよいのか（大人の場合は、どうやって仕事を続ければよいのか）など、平時から「防災教育」と「防災訓練」をしておくことで、次なるパンデミックにも対応力が高い状態で臨めるでしょう。

それと同時に、これも『レジリエンスとは何か』に書いたように、それぞれの地域が、「食料が輸入できなくなったら？」「エネルギーの輸入が難しくなってきたら？」「輸入や長距離輸送のコストが増加していったら？」「円が使えなくなったら？」「雇用が消えていくとしたら？」という、今後想定される状況に対する想像力をたくましくして考えておく必要があります。その状況がやってきてから対応を考えるのではなく、家庭と地域の「自給力」を高めるなどの取り組みを平時から進める必要があります。特に、食料とエネルギー、雇用とお金について

は必須です。

そして、危機が去って平時に戻ると、レジリエンスの重要性は忘れられ、また短期的な効率を優先しがちになります。そうならないために、「自分たちのまちのレジリエンス指標」を作っておくとよいでしょう。自分たちにとってのレジリエンスをどう定義するかをみんなでしっかり考えて、その進捗を測る指標を作っておくのです。そうすれば、短期的なお金に関する指標だけを最大化しようとするのではなく、「効率は少し落ちるけど、レジリエンスもある程度確保できるこの線でいこうね」というような判断ができるようになります。危機の直後はみんな痛い思いをしているので考えるのですが、数年経つと、またレジリエンスを考えに入れない地域に後戻りしがちです。そうならないように、歯止めを掛けておくことです。

設問 1

下線部分の意味する内容について、（問題文には記載されていない）具体例を挙げて説明しなさい。

なお、解答は解答用紙（そのⅠ）に行うこと。

（配点: 20 点）

設問 2

キューバにおけるハリケーン対策を参考にして、レジリエンス向上のために学ぶべき事項について指針なり一般原則の形で対応策を整理したうえで、ハリケーン以外の危機を例に対応方法を具体的に説明しなさい。

なお、解答は解答用紙（そのⅠ）に行うこと。

（配点: 40 点）

設問 3

多様性の低下がレジリエンスの衰退に招くという著者の主張について、自分の言葉で整理したうえで、問題文に記載されたのとは異なる例を挙げて、その意味を説明しなさい。

なお、解答は解答用紙（そのⅡ）に行うこと。

（配点: 40 点）

［このページは空白です。］